

## 令和5年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	68	学校名	静岡県立磐田西高等学校	校長名	山崎 裕子
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立と高い規範意識の育成により、豊かな人間性を醸成する。	・『あせふこ』の意味と意義を理解し、意識して生活している」生徒 90%以上 生※1 ・「気持ちの良い挨拶を自分からしている」生徒 80%以上 生※2 ・「制服(頭髪を含む)を正しく着用している」生徒 90%以上 生※3	生※1 91.5% ① 91.0% ② 94.8% ③ 88.7% 生※2 91.6% ① 92.3% ② 92.8% ③ 89.6% 生※3 95.6% ① 98.3% ② 96.5% ③ 91.9%	A	・90%以上の生徒が挨拶や清掃、服装を意識し生活できたが、挨拶や服装面で一部規範を守り切れない生徒がいた。大きな乱れはないが学校全体で意識を向上していくはたらきかけが必要。 ・気持ちの良い挨拶をする生徒91.6%会釈程度にとどまる生徒もいるが、明るい挨拶を心掛ける生徒は増えている。 ・制服(頭髪を含む)を正しく着用している生徒95.7%学年で差がある。校内での着用は意識する生徒が多いが、校外に改善点あり。
		・日々の学校生活の中で個々の生徒に声を掛けている。 ・「ルールやマナーの意義について考え、主体的に守ることができた」生徒 80%以上 生※7	生※7 95.8% ① 96.6% ② 95.0% ③ 95.9%	A	・頭髪・服装、学習などすべての面において、自己管理能力を向上させたい。 ・継続指導の生徒は数名(5%未満)
		・「8:25 朝読書開始を守っている」生徒 80%以上 生※4 ・「チャイムと同時に授業開始の準備ができている」生徒 90%以上 生※5 ・「次の予定と時間を意識した行動をしている」生徒 80%以上 生※6	生※4 95.1% ①95.7% ②96.1% ③93.7% 生※5 98.7% ① 99.2% ② 98.3% ③ 98.7% 生※6 96.2% ①96.6% ②95.7% ③96.4%	A	・ほとんどの生徒が8:25に朝読書を開始できており、不注意遅刻者はゼロに近いが、冬場に若干発生する。95% ・朝読書(学習)はクラスによる差があったが、学年団一丸の取り組みにより、95%は達成している。(生徒自己診断 96.1%)

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃点検の実施年 20回</li> <li>・部活動一斉清掃の実施 年4回</li> </ul>	<p>部活動一斉清掃は4回実施(含:校内清掃・2月末実施)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週末、美化委員を中心に清掃点検を実施することができた。清掃活動は、どの場所も丁寧に行っているが、トイレなどの使い方で問題がいくつかあった。まずはきれいに使うことについて美化委員を中心とする広報活動が必要である。</li> <li>・部活動一斉清掃は4回の実施にとどまった。</li> </ul>
イ	生徒が主体的に学ぶ姿勢の形成を促し、確かな学力と幅広い教養を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他教員の授業を見学し、自らの授業改善を行った」教員 80%以上 教※1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観週間を2回実施。校内研修として理科、英語科の研究授業実施。</li> <li>・中学生一日体験授業及び公開授業を実施(2回) 教※1 91.4%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業(理科・英語科)は多数の教職員が参観</li> <li>・参観週間以外にも、積極的に相互参観ができた。アクティブラーニングの方法や、ICTの活用においても、互いにアイデアや経験を伝え合うことができた。</li> <li>・中学生1日体験入学(8/7) 中学生 855名参加 保護者 300名</li> <li>・公開授業(10/22) 中学生 226名参加 保護者 56名</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ICTを活用する授業を行っている」教員 80%以上 教※2</li> <li>・「情報セキュリティを意識しながら学習支援ツールや教育用クラウドサービス等を活用した」教員 80%以上 教※3</li> </ul>	<p>教※2 57.2%</p> <p>教※3 74.3%</p> <p>教務課が測定ツールを使い学校教育活動診断を実施。</p> <p>年2回各授業担当がICTを使い授業アンケートを実施。</p> <p>スタディサプリ等による学習資料や課題の配布。</p>	B	<p>「授業は分かりやすい」生徒は77.4%、「板書、プロジェクター表示が見やすい」生徒は82.8%であった。授業の目標を達成するための手段として必要な場面で端末を活用し、生徒がより積極的に参加する授業への工夫が必要である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒による主体的な活動や生徒同士の対話のある授業・諸活動を行っている」教員 70%以上 教※4</li> </ul>	<p>教※4 68.5%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の3観点を意識して生徒の主体的な活動を促す授業の工夫を継続している。</li> <li>・委員会活動や部活動においても、タブレット端末等も活用して効率よく連絡や意見交換のできる環境整備ができるとよい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平日1時間、休日2時間以上の自主学習ができている」生</li> </ul>	<p>生※13 38.4%</p> <p>① 35.8%</p> <p>② 30.0%</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月までの6回の学習時間調査の結果から、本校生徒の日々の学習時間の平均は97分であるこ</li> </ul>

		<p>徒 40%以上生※13 ・「スタディサプリ等を活用して学習している」生徒 70%以上 生※14</p>	<p>③ 49.3% 生※14 27.5% ① 37.0% ② 25.6% ③ 19.9%</p>		<p>とがわかる。定期試験前の学習時間はきちんと確保できているが、学期当初の学習時間が全学年で少ない状況である。 ・課題の量と質を検討していくことが引き続き必要である。 ・スタディサプリを学習に活用している生徒が全体では27.5%である。教科と連携して、積極的な活用について研究していく必要がある。</p>
		<p>・「測定ツールやアンケートを活用して学習習慣等の改善に対する助言を行った」教員 70%以上教※5 ・「学校の教育活動で、生徒は『学ぶ姿勢』が身に付いている」保護者 80%以上保※4</p>	<p>教※5 65.7% 保※4 84.6% ① 85.0% ② 80.9% ③ 87.9%</p>	B	<p>・年二回の学習支援アンケートや授業アンケート等によって、現状を把握し、効果的に助言をしている。 ・保護者アンケートでは、生徒の「学ぶ姿勢」に対する評価が目標値を超えている。</p>
ウ	<p>普商併設の特色を生かし、地域・社会と連携しながら、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に対応し、自己実現を支援する。</p>	<p>・「学校からの進路情報や進路指導は適切である」生徒 90%以上生※17 ・「学校の進路指導は適切であり、三者面談等は満足の内容である」保護者 80%以上保※9</p>	<p>生※17 90.1% ① 95.4% ② 87.6% ③ 87.4% 保※9 83.7% ① 83.7% ② 80.9% ③ 86.6%</p>	A	<p>・学校からの進路情報や進路指導の適切さについては学年が上がるごとに、少しずつではあるが、その割合が減少しているため、個別の進路希望に必要な情報の提供や指導について工夫していく必要がある。 ・保護者の学校の進路指導に対する満足度は目標を達成しているが、全学年において保護者を対象とした進路説明の機会を設けることを検討していく。</p>
		<p>・「『双翼タイム』は、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し、解決する力の向上に役立っている」生徒 70%以上生※16</p>	<p>生※16 73.3% ① 80.0% ② 73.0% ③ 67.0%</p>	B	<p>・東京研修の満足度 99%(今後の進路選択に活かしたいという感想がほとんど)東京研修の成果を2年次に繋げ、3年間の探究活動を深めていきたい。 ・探究やインターンシップ、オープンキャンパスなどの取り組みを通して、100%に近い生徒が進学/就職の別や業種・校種の希望を明確にしている。今後の指導やガイダンスを通じ、自分の将来像により具体性を持たせたい。 ・納得した進路実現のための取り組みができた生徒が 87%</p>

					・総合的な探究の時間における進路希望別の取り組み(3年)は、進路実現に役に立ったと考える生徒が67%△
		・「個人で、または部活動や委員会活動を通して、地域行事やボランティア活動、国内・海外研修等に年1回以上参加した」生徒60%以上 生※19	生※19 45.2% ① 48.1% ② 50.8% ③ 36.6%	B	・「児童への読み聞かせ」を通じ、達成感や充実感を感じた生徒100%。近隣の小学生において、全学年の児童に読み聞かせを実施。高学年対象の選書は難しかったが、12月は希望者も参加し、生き生きと活動できた。 ・地域との連携や交流が増え、活発な活動ができた。磐田市の中小企業の企業説明会へも参加し、将来の地域課題を知ることができた。また、課題研究の取り組みにおいて地域の課題解決に対する施策を考え発表する機会もあり、社会に参画する姿勢を身につけることができた。
		・「図書館を通じた読書活動の推進が活発に行われている」生徒60%以上 生※28 ・「年間7冊以上の本を読む」生徒70%以上 生※27	生※28 51.0% ① 44.7% ② 50.9% ③ 57.4%  生※27 54.7% ① 57.9% ② 56.0% ③ 50.3%	B	年間7冊読んでいる生徒20%(2学期末時点で、生徒一人あたりの年間読書量4.8冊)。家庭でも読書をしている生徒36.3%。個人差が大きく、二極化が進む。朝読書は、落ち着いて行うことができている(8:25朝読書開始生徒95.2%)。冊数に関わらず、読書の充実を推進する必要がある。
		・「進学補習を活用した学習や資格・検定試験に挑戦した」生徒50%以上 生※15	生※15 47.5% ① 35.8% ② 46.6% ③ 60.2%	B	・各検定試験に挑戦し、実社会で役立つスキルを身につけることができた。基礎ゾーンの検定試験については合格率が高く100%取得できた試験もある。簿記検定・情報処理検定については良い結果が得られることが期待できる。 ・普通科生徒の英・数・国等の検定への挑戦もさらに推奨する。
エ	人権を尊重し、多様な価値観を認め、互いに支え合う姿勢を土台とした人間関係形成力を育成する。	・いじめ等に関する指導案件なし ・「人権や情報モラルに関する講座や授業を通して、人権意識が向上した」生徒80%以上 生※22	・いじめ等に関する案件には適切に指導を行った。  生※22 90.9% ① 89.3% ② 92.3% ③ 91.0%	B	・自己決定の場の提供や安全・安心な風土の醸成により、自己存在感の感受、共感的な人間形成の育成をさらに実践していく。 ・生徒の人権意識は講座や授業を通して向上している。

		・相互に円滑なコミュニケーションを図ろうとする姿勢・雰囲気がある。生※25	生※25 84.8% ① 85.9% ② 85.1% ③ 83.3%	B	・自分から友人に声をかけたり、困っている友人を率先して手助けしようとする姿勢が見られる。
		・「先生方は私の良いところを認め、意欲や向上心が高まる言葉をかけてくれる」生徒 90%以上生※25	生※25 84.8% ① 85.9% ② 85.1% ③ 83.3%	B	・多くの生徒は「先生方からの前向きな言葉かけ」を感じている。 ・朝の登校指導中の声掛けに反応する生徒も多い。
		・「学校生活の悩みについて、先生方やスクールカウンセラーに相談できる」生徒 70%以上 生※24 ・「先生は保護者からの連絡・悩み・相談したいことについて、適切に対応してくれる」保護者 85%以上生※20	生※24 88.2% ① 88.0% ② 90.2% ③ 86.4%  生※20 85.7% ① 87.7% ② 87.0% ③ 82.3%	A	相談ごとや困りごとに対して適切な支援を得られているという生徒は85%以上であった。保健室が定期的に回覧してくれる保健日誌や生徒状況記録簿による情報共有によって、保健課職員、学年主任が困り感のある生徒をリアルタイムで把握し、対応できた結果だと考える。
オ	家庭や地域等との連携を基盤とした、安心・安全で信頼・応援される学校づくりを行う。	授業や学校・学年行事、部活動等の様子をホームページ等で積極的に広報し、学校に対する地域の理解を深める。	学校ホームページの更新を週1回以上行い広報活動ができた。	B	来年度、ホームページのシステムが変更されるので、適切に対応し職員が記事作成しやすいようにしていきたい。
		生徒向け、保護者向けの各種たよりのデジタル配信を推進し、ペーパーレス化を図る	絆メールやアンケート、スタディサプリなどの機能を活用してペーパーレス化を実施。	A	・印刷物を減らし、生徒向けの配布物(修学旅行・東京研修のしおり等)はデジタルで配信。 ・学年だよりなど保護者向けの配布物も必要に応じてオンライン配信などを実施。
		防災・交通安全・健康に関する講座や活動の実施により、命を守り、健康を増進する意識を向上させる。生※20 生※21 生※23	生※20 81.3% ① 82.2% ② 79.9% ③ 81.9%  生※21 97.0% ① 97.5% ② 97.1% ③ 96.4%	A	・地域防災訓練前日の津波警報発令により、ほとんどの地域で訓練は中止されたが、実施地域では70%以上の生徒が参加した。 ・地震、火災を想定した避難訓練を実施。コロナ禍により数年間訓練が行われていなかったが、予想を超える素早さで全校生徒が避難を完了することが出来た。

			<p>生※23 94.0%</p> <p>① 97.0%</p> <p>② 91.9%</p> <p>③ 93.2%</p>	<p>・交通ルールを遵守している生徒97.0%、事故件数6件。警察による交通違反指導を受けた者が多数いる。校外での生活についてはもう少し改善が必要。</p> <p>・講座を通して意識が向上したという生徒が全体で90%以上となり、目標を達成できた。今年度は新たにがん教育の講座を3年生で実施した。生徒を取り巻く健康や性についての課題は年々変化しているため、さらなる向上のためによりニーズにあった講座の検討も課題である。</p>
		<p>コンプライアンスに関する月例研修や日常的な相互の声掛けにより、教職員が危機管理意識を向上する。</p>	<p>・職員会議内でのコンプライアンスに関する研修を実施。</p> <p>・朝の打ち合わせによる危機管理意識の徹底を実施。</p> <p>・各部署において、予算等の適正な執行と会計報告を実施。</p>	<p>A</p> <p>・教職員は日々の声掛けなどにより危機管理意識を向上している。</p> <p>・県内外での出来事についても教職員が共有し、自己意識向上に役立てている。</p>
		<p>学年・分掌・部活動等の各部署において、学校経営予算等の適正な執行及び会計報告を行う。</p>		<p>A</p> <p>・予算執行には丁寧に対応し、担当職員の適切な対応により執行及び会計報告を行った。</p>
<p>力</p>	<p>生徒及び教職員が、生き生きと学校生活を送り、学び続ける意欲を持つことのできる環境を整備する。</p>	<p>・「本校での学校生活に満足している」生徒・保護者 90%以上</p> <p>生※30 保※26</p> <p>・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかにおいて積極的に活動できた」生徒 80%以上</p> <p>生※18</p>	<p>生※30 90.1</p> <p>① 91.4</p> <p>② 89.3</p> <p>③ 89.5</p> <p>保※26 92.1</p> <p>①93.6</p> <p>②89.9</p> <p>③92.7</p> <p>生※18 93.8%</p> <p>① 93.2%</p> <p>② 93.2%</p> <p>③ 95.1%</p>	<p>A</p> <p>・諸活動に消極的な生徒もいた様子である。文化祭、体育大会、球技大会など、生徒主体の活動になるようにしたい。</p> <p>・修学旅行は全員が全種目参加し、事後アンケートも満足度・達成度の好評価は100%であった。行事や特別活動への生徒自己評価では93.2%が達成と回答。自己実現を果たしつつ、下級生や外部への好影響を与える生徒も増えつつある。</p> <p>・東京研修満足度99%、今後の進路探究に活かしたいという感想がほとんどであった。</p> <p>・学校行事やクラス行事に積極的に取り組むことができた生徒が95%以上○</p>
		<p>校内施設・設備、備品・消耗品等の整備・点検を定期的に行い、修繕等の対応を迅速に行う。</p>	<p>・各部署において備品・消耗品等の整備・点検を随時実施。</p> <p>・修繕などが必</p>	<p>A</p> <p>・備品・消耗品等の整備・点検を定期的実施。</p> <p>・安全点検表を作成し、随時、また、台風時等の警報発令時などでは重点的に巡視を行った。</p>

			要な場合は速やかに対応を行った。		・施設が老朽化のため対処処置し かできなかった。
	各分掌の主催による教職員研修やキャリアステージに応じた主体的な自己研鑽を通じて、一人一人の教職員が自らの資質能力を向上させる。教※7		教職員が各自で研修記録簿を作成。各分掌主催の研修や校外の研修に積極的に参加。 教※7 82.8%	A	・校内の研修だけでなく、校外の研修も業務に支障がない範囲で積極的に参加していた。
	業務の平準化に取り組むとともに、分掌の業務を「無くす」「減らす」「変える」の視点で見直し、負担感・多忙感の改善に努める。教※8		コロナ禍以前の業務に戻る状況下であるが、業務の内容を見直したが、負担感・多忙感の改善には至らない。 教※8 20.0%	C	各分掌・学年などで業務の改善を検討するが、コロナ禍下と比較すると、業務量は増加。 今後、適切な業務量について検討し、思い切った業務改善をする必要がある。
	生徒完全下校時刻(19:30)を守らせるとともに、教職員は効率的な業務遂行に努め、週1回の割合での定時退勤に努める。教※9		・教職員は効率的な業務遂行に努めるが、繁忙期はかなり努力を要する。 教※9 51.4%	B	・事務室では繁忙期を除き、ほぼ定時退勤ができた。 ・教員は定時退勤に努めている。 ・業務量が多い時期は定時退勤が難しい。生徒指導・生徒相談など生徒への安全に関する業務は時を逃さず、丁寧に対応している。